

中村公園ワークショップ新聞

12月21日 土曜日
第4号



主催：藤沢市都市整備部
公園課
発行：株式会社ライフ
計画事務所
編集長兼記者兼司会兼
印刷工 石田裕樹

第4回中村公園ワークショップ開催！

公園計画決定！ 名称は「なかむら公園」に！

地域の公園をみんなで創ろうという中村公園ワークショップの最終回が十二月二十一日、石川市民の家において開催され、最終プランと公園名が決定された。公園課ではこの計画を基に公園の整備を進めていくという。ちなみにオープンには平成18年度以降の予定である。

広場を中心に藤棚を築 しめる公園、斜面アス レチックと西側の遊具 広場が特徴！

第4回ワークショップは12月21日(土) 石川市民の家で行なわれた。外は小雨降る寒い一日であったが会場内は新しい公園プランの最終決定に熱く意見が交わさ

れる一日となった。

議事は第2回に話し合われた公園の基本方針(公園の森)や第3回のグループ毎につくられた計画図を基に事務局で安全性や実現性を検討し清書されたプラン

2案を基に話し合いがなされ、このふたつのプラン案を基に最終的な計画図がまとめられた。なお今

なかむら公園 鳥瞰図



名称は「なかむら公園」に！

これまで仮称として「中村公園」を使用してきたが、プランの合意後メンバーみんなから名称を出してもらい、多数決により「なかむら公園」を名称とすることに決定した。藤を名前に取り入れた案や「ユウ中村公園」(ゆう遊ぶ、友、ユートピア・・・などたくさん

の意味を含ませた)などたくさんさんの名前が提案されたが、もっともわかりやすいこの名前に決定した。

今日の紙面

| | |
|--------------|----|
| 公園計画 決定！ | 1面 |
| 計画案2つの解説 | 2面 |
| 公園計画 | 3面 |
| ワークショップをふり返る | 4面 |



みんなで計画案を検討する

田村博士の興と説明

日本の公園制度には大きく別けて都市公園制度と自然公園制度という2つの制度があります▼それぞれ根拠となる法律も違い監督官庁も国土交通省と環境省とまったく違います▼「なかむら公園」は都市公園ですがこの近くでは「丹沢大山国定公園」などが自然公園になります▼実はなぜ自然公園の話しを急に切り上げたかと言いますとこのまえちょっと驚いたことがあったからです▼私が大学で造園学を勉強している頃日本の国立公園制度は昭和6年国立公園法の制定にはじまり帝大教授田村剛博士らの尽力によりはじまったと習いました▼教科書には山岳地を調査する興に乗った田村博士の写真も載っていたのです▼当時の私はさすが帝大の博士様は興に乗って調査できるほど偉かったんだと頓珍漢な納得をしていました▼しかし実は田村博士は偉いから興に乗っているわけではなく38歳の時に台湾調査の帰途片足をなくすという不運に見舞われた方だったそうです▼まったく私は馬鹿な学生だったわけですが▼ただ授業でもひとこと先生が足が不自由だったことを説明してくだされればよかったのに：と▼10年以上も前の授業を思い出して人にものを説明をする難しさを感じる今日この頃です▼ワークショップご参加ありがとうございました。

これが「なかむら公園」基本計画図だっ!



みんなの「なかむら公園」は

大きな広場と遊具がいっぱい

「なかむら公園」は大きな広場を中心に遊具が沢山、散歩やジョギング、休憩も出来る楽しい公園です。「花眺風月」みんなで行ってみたい、のんびりふれあい、なかむら公園」を公園整備のテーマにしました。

多目的な街の広場

大きな芝生広場は、子供たちが走り回ったり、軽い運動をしたりするアクティブな利用から、ぼんやり、のんびり寝ころんだりする日常的な休憩まで幅広く対応するほか、盆踊り大会のようなイベントから被災時の一次避難地など。多目的に利用できる街の広場です。

傾斜を活かした遊具の斜面

東側斜面は、ローラーすべり台や岩石渡りなど斜面ならではの遊びを取り入れました。草付きの斜面では子ども達が、ガングアンと遊び回ります。

クスノキを中心に草っぱら広場

公園内にめだつ、クスノキの大きな木を中心に小さな子供たちが楽しく遊べるゾーンを設けました。主に学齢前の子供たちを対象とした遊具(ブランコ、砂場)などを設けます。現況のようなタンポポの咲く草原としました。

公園のシンボルツリーとして保存・育成して行く



雑木林の復元を目指します

現在、竹で覆われている斜面は、防犯上からも刈り払うこととしました。かつてあった雑木林の復元を目指します。カタクリの花の咲くような明るい雑木林を目指した里山管理をおこなっています。また、斜面上部の緩やかな傾斜部分はブナやシイなど子供たちがどんぐりを拾える「どんぐりの林」としました。



| ゾーン名 | 概要 |
|-------------|---|
| ① 芝生広場ゾーン | 公園の中心となる芝生広場のゾーン。子供たちが走り回ったり、軽い運動をしたりするアクティブな利用から、ぼんやり、のんびり寝ころんだりする急速までの日常的な利用、盆踊り大会のようなイベント、また被災時の一次避難地などに利用できる多目的な広場である。広場を取り巻くようにジョギングやウォーキングができる園路を設け、車道に接する南側は歩道としての利用も考慮したつくりとする。園路には何メートル走ったかわかるような距離表示をおこなう。距離表示は一日何周を何日続ければ日本一周などの参考距離を表示する。園路東側には長い藤棚を設け、公園の顔とする。 |
| ② 草っぱら子供ゾーン | クスノキの大木の下に広がる子供たちが楽しく遊べるゾーン。主に学齢前の子供たちを対象とした遊具を配置する。主な施設は、小型複合遊具、砂場、ブランコ、ターザンロープ、あつまやなどである。舗装は現況に近い草原とする。特に子供たちが遊ぶ場所であるため、園外からも見通しの良いつくりとする。 |
| ③ 遊具斜面ゾーン | 草地のスロープとし、上から下まで体を動かす遊具でつなげたアクティブな遊びの斜面ゾーンである。園路は丸太階段などでつづら折の階段とする。主な施設は、ローラーすべり台、丸太渡り、岩石わたりなどである。斜面は遊具で遊ぶ意外にも工夫を凝らした遊びが出来るようにオープンな草付きの場所を設ける。植栽は季節の花が楽しめるツツジやアジサイ、ユキヤナギなどの低木を用いる。 |
| ④ 斜面下休憩ゾーン | 既存樹を活用したモミジの広場、斜面の雑木林の景観をゆっくり楽しめる静かな空間である。広場には野外宅を設置する。 |
| ⑤ 雑木林復元ゾーン | かつての雑木林の復元を目指した斜面のゾーンである。カタクリの花の咲くような明るい雑木林を目指した里山管理をおこなう。斜面上部の緩やかな傾斜部分はブナやシイなど子供たちがどんぐりを拾える「どんぐりの森」とする。 |

防災用のトイレも設置しました

地域の為の公園として被災後の利用も考えたつくりとしました。いつ襲ってくるかわからない災害のために防災用のトイレを設置します。これは普段はマンホールがあるだけです、緊急時は目隠しなどを設置してトイレとして使えるものです。常設のトイレに隣接し設置します。



トイレのイメージ設計図



なかむら公園 藤棚イメージスケッチ

大きな藤棚が公園の顔となります

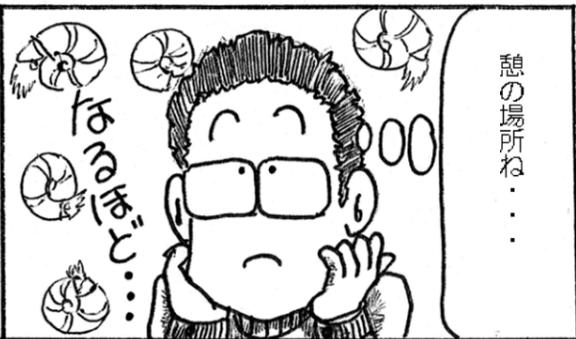
クスノキの大木とあわせ、大きな藤棚が公園の顔となるように芝生広場を取り巻きます。藤沢市の藤をモチーフにしました。毎年大きくなっていく藤を楽しみに春の季節を楽しめます。

桜並木や四季折々の花も楽しめます

公園内にはお花見が楽しめる桜の並木や、ツツジやサツキ、ユキヤナギやアジサイなど四季折々の花や、モミジの紅葉など、季節感を楽しめる植栽を行います。

4コママンガ「ながむらくん」 アキラ作

ワークショップの結果みんなの憩の場所として、計画をまとめることになりました。



憩の場所ね...



あら、あら、お掃除のじゃまよ。



やはじいんか...



第1回現況把握

青空の下、現況や将来の夢について話し合いました。



第2回基本方針の設定

基本方針を葉っぱに書き込みみんなで「公園の木」を作りました。



第3回プラン案の検討

基本方針を基に施設配置をグループ毎に検討しました。



第4回最終プラン検討

最終案と公園の名前を決定しました。

特集ワークショップ「ながむらくん」



9月21日の第1回目から12月21日の第4回目までちょうど3ヶ月間のプロジェクトでした。ここでは全体を振り返ってみたいと思います。



オープンは10月以降！
「ながむらくん」
これから予定
基本的な計画は今年度できあがりましたが、これから設計・工事と時間が必要なためオープンは平成18年度以降になる予定です。工事が長引く場合など、できたところからオープンしていくことも検討してまいります。もししばらくお待ちください。

参加者のみなさんお疲れさまでした。

公園でお花見をする時は呼んでください。(石田)



| | |
|-----------|-------------------|
| 平成14年度 | 計画づくり |
| 平成15年度 | 工事のための設計図書づくり(予定) |
| 平成16-17年度 | 工事(予定) |
| 平成18年度 | オープン(予定) |

